

海洋資源開発促進のための造船協力に関する

日本国とブラジル連邦共和国との間の共同声明

下記の声明は、2014年8月1日、安倍晋三総理大臣のブラジル訪問の機会に日本国政府及びブラジル連邦共和国政府によって発表された。

日本とブラジルは、ブラジルにおける海洋石油開発及び生産を支える船舶及び海洋構造物を建造し、維持し、管理するために、ブラジルの造船産業の基盤を強化することが重要であることを認識する。加えて、両国は、造船産業は、造船施設及び労働力のみならず、建造のための高度な技術、専門知識及び技能を必要とすること及び、長年にわたる経験を通じて日本の造船産業が得た技術、知見及び技能が、ブラジルの造船産業にとって有益であることを認識する。

両国間の造船協力において最も重要な要素は、日本の造船企業が、ブラジルの造船産業の能力向上のために投資してきたこと、並びに技術者及び技能労働者を派遣してきたことである。

2012年5月、川崎重工業株式会社は、エンセアーダ・インダストリア・ナバル造船株式会社に投資する合併事業のために、オデブレヒト株式会社、OAS株式会社及びUTC株式会社との契約書に署名した。2012年7月、ジルマ・ルセーフ・ブラジル大統領の臨席の下、造船所起工式が成功裏に行われた。現在、造船所は建設中であり、セッチ・ブラジル向けの掘削船の建造が同時に行われている。

2013年6月、株式会社IHI、日揮株式会社、株式会社ジャパン・マリン・ユナイテッドは、日本の進んだ技術的知見と操業上の知見を共有するかたちで、アトランティコ・スル造船所(EAS)への資本参加を開始した。これらの企業は、いまやアトランティコ・スル造船所において、カマルゴ・コヘア・グループ及びケイロス・ガルボン・グループとともに、3分の1ずつ資本を保有している。造船所は、すでに3隻のシャトルタンカーを建造し、ルセーフ大統領が各引渡し式に出席した。EASの今後の引渡しには、ペトロプラス向けの石油タンカーと石油掘削船が含まれている。

さらに、三菱重工業株式会社、今治造船株式会社、株式会社名村造船所、株式会社大島造船所および三菱商事株式会社は、エコビックスーエンジェビックス大洋建設会社と出資契約に署名した。現在、FPSO船体部及び掘削船の建造が行われている。

日本とブラジルは、ブラジルにおけるこのような日本の造船企業の参画が、ブラジルの造船産業の生産性と品質の向上において重要な役割を果たすこと、及びブラジルにおける沖合の石油開発及び生産が事業計画どおりに可能になることを期待する。

造船産業における日本とブラジルとの間のパートナーシップを強化するため、海事技術及び産業分野における協力に関する覚書がブラジル国開発商工大臣及び日本国国土交通大臣によって署名された。さらに、両国の官民は、石油開発及び生産並びに造船産業の発展に関する事項について情報交換し、解決策について議論するために、毎年リオデジャネイロにおいて、協議会を開催する。

現在、ブラジル造船産業の発展において関連するのは、造船産業向けの人材の質の向上である。この状況を改善するため、日本とブラジルは、人材を開発するための技術協力プロジェクトを開始する予定である。このプロジェクトに沿って、国土交通省、国際協力機構(JICA)、ブラジル開発商工省(MDIC)及び全国工業職業訓練機構(SENAI)は、ブラジル人労働者の造船のための技能と知識を向上させるために、日本での研修を含め、指導者の交流を促進する。

また、このプロジェクトは、日本式の実践的な造船工程管理及び建造方式をブラジルの造船産業に導入する。このプロジェクトの実施は、ブラジル開発商工省及び国土交通省の造船政策専門家により管理される。

両国は、沖合の油田がブラジルの陸地部分から沖合の方へ移動し、水深が深くなるなか、開発及び生産能力を確保するために、ブラジルの造船産業の技術と製品が、安全性、性能、機能、効率及び品質の観点から、より高いレベルの要件を満たすべきであることを認識する。

上記の要件を満たすための典型的な課題の一つが、プレソルトエリア

と呼ばれる沖合300キロメートル以上離れた場所に位置する洋上プラットフォームに、陸から作業員を輸送する際の安全性と効率を確保する方法である。

上記課題の潜在的な解決策の一つとして、日本の造船産業は、高速船や大型浮体構造物技術からなるロジスティックハブシステムを提案してきた。

両国は、民間分野だけではなく、学術及び行政レベルにおける日ブラジル間の協力を強化することにより、沖合の資源開発のための技術及び製品開発を行うことが重要であることを認識する。

また、両国は、造船分野の日本とブラジルの協力は、現在のIHI株式会社がリオデジャネイロにイシカワジマ・ド・ブラジル造船所(イシブラス造船所)を設立した1950年代に遡ることを認識する。さらに、両国は、現在の造船協力が、イシブラス造船所とその乗船所で働いた多くの人々によって築かれた、造船分野における両国の信頼関係によるものであることを認識する。

この経験から、日本とブラジルは、今後のブラジルの沖合の資源開発のための造船分野における協力関係の強化が、経済分野の協力の強化だけではなく、両国間の人材交流を通じて友好関係の強化にも貢献することを期待する。